

RICERCA di LUCE

TOMONORI YOFUKU

郷土の美術をみる・しる・まなぶ 2021

豊福知徳
寄贈記念展
光の探求

2022.1.22[土]
— 3.13[日]

福岡県立美術館
Fukuoka Prefectural Museum of Art

(円柱 1) 1965年、木・着色、当館蔵、撮影者不明

豊福知徳 寄贈記念展 光の探求

2022.1.22[土]—3.13[日]
10:00-18:00(入場は17:30まで) | 月曜休館 | [主催] 福岡県立美術館 [特別協力] 一般財団法人豊福知徳財団

福岡県立美術館 4階展示室
Fukuoka Prefectural Museum of Art

TOMONORI TOYOBUKI RICERCA di LUCE

終戦

伝統的木彫の世界に入門

1944年國学院大学国文科に在学中、志願兵として陸軍入隊。特攻要員として軍隊生活を送るなか終戦を迎えた。大学に戻ることなく帰郷。その後、太宰府在住で、山崎朝雲の弟子であった富永朝堂に入門。修業を終えた後も師匠の傍で伝統的木彫の仕事をする一方で、近代彫刻への興味を膨らませていく。



下宿先にて、太宰府、1950年頃、片山攝三撮影

1950年代

上京、 第2回高村光太郎賞の受賞

1950年第14回新制作協会展に〈男のトルソ〉(1950)を初出品。1952年上京し三鷹市にアトリエを構える。新制作協会展で活躍を重ね、1959年、〈漂流 58〉(山口県立美術館所蔵、本展不出品)で第2回高村光太郎賞を受賞し日本の彫刻界で注目を集める。

1960年代

ミラノへ、飛翔のとき

1960年、東京画廊の初個展後、出品作家の一人として選出された第30回ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)の日本館の展示を見るために単身現地を訪問。そこでミラノの画廊と1年後の個展開催の契約を結び、そのままミラノにアトリエを構える。新たな表現を模索し、それまでの半具象的形象から、鑿で穴を穿つ抽象彫刻の道を切り開く。イタリア初個展は評判を呼び、その後ナヴィリオ画廊(ミラノ)と契約し、80年代まで定期的に同画廊で発表を続けた。新たにブロンズなど木以外の材質で表現の幅を広げ、1964年、2度目のヴェネチア・ビエンナーレ日本館、翌年第8回サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル)には〈円柱 I〉(1965)を含む大作8点を出品。カーネギー・インターナショナル(アメリカ)でのウィリアム・ヒュー賞の受賞など国際的な活躍を遂げる。

1970年代

旺盛な創作意欲／表現の模索

ミラノでの旺盛な創作意欲と画廊での発表によって、その名は欧州の美術界でも知られる存在となるも、豊福はさらなる表現の展開を模索し続ける。1978年には北九州市立美術館で回顧展が開催され、この個展により第10回新潮社日本芸術大賞を受賞。また、九州産業大学芸術学部の待遇教授として毎年秋に一時帰国する生活を2000年まで続ける。

1980年代

自身の限界に挑む

郷里・久留米市の中央公園に巨大な石組みのモニュメント〈石声庭〉(1983、一般公募のタイトルは「愛の泉」)を制作し、第9回吉田五十八賞受賞。その後、ミラノのアトリエにおいて、一人、木彫大作シリーズ「光の探求」を制作し、彫刻家人生を賭して心身ともに自らの限界に挑む。

1990年代

博多港引揚げ記念碑

《那の津往還》

1994年三鷹市美術ギャラリーで個展が開催され、1996年博多港引揚げ記念碑《那の津往還》を制作。本作で本郷新賞を受賞し、受賞記念展が札幌彫刻美術館でひらかれた。この頃、宮島の観月能、佐渡島などを訪れ日本への帰国の思いを一層募らせる。

2000年代

帰国

2003年熊本県小国町において台風で倒木した樹齢1300年の阿弥陀杉でモニュメントを制作。同年43年間にわたるミラノ拠点の生活に区切りをつけ帰国。師匠富永朝堂の工房で最晩年の木彫となる《縦の構造》(2004)を完成させた。

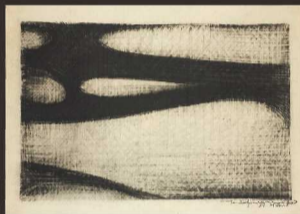
彫刻家・豊福知徳(1925-2019、福岡県三井郡山川村(現久留米市山川町)生まれ)は、1960年から43年間に渡ってミラノを拠点に国際的な活躍を展開した芸術家です。このたび、生前の意思を継いだご遺族、及び一般財団法人豊福知徳財団のご厚意により、晩年の作家の手に残された113作品が当館に一括寄贈されました。このことを記念し、豊福知徳寄贈記念展「光の探求」を開催します。本展は、今回の寄贈作品を中心に当館所蔵品の中から厳選した約50作品で構成されます。公立の美術館では25年ぶりの個展開催となり、初期から晩年にかけての作品と残された資料で偉大な芸術家の知られざる足跡をたどることができる待望の機会となります。ぜひ会場でご覧ください。



〈男のトルソ〉1950年、木、当館蔵、山田満穂撮影



イタリア初個展に向けての制作時のアトリエ風景、ミラノ、1961年頃、撮影者不詳



〈ドロイング〉1961年、鉛筆・紙、当館蔵



久留米市中央公園にある〈石声庭〉1983年 久留米市、遠江晃撮影



〈継続〉1973年、ブロンズ、当館蔵、山田満穂撮影



〈光の探求 '89-I〉1989年、木、当館蔵、Renato Zucchin撮影



〈横たわる構成I '93〉1993年、木・着色、当館蔵、遠江晃撮影



博多港引揚げ記念碑《那の津往還》1996年 福岡市、遠江晃撮影

イベント

特別講演会

講師 || 建昌哲氏(美術評論家、多摩美術大学学長、埼玉県立近代美術館館長)
2022年2月26日[土] 14:00-

担当学芸員による解説会

講師 || 岡部るい(当館学芸員)
2022年1月29日[土]、2月12日[土] 14:00-

会場 || 当館4階視聴覚室

各回事前予約制(福岡県立美術館 Tel: 092-715-3551、Fax: 092-715-3552)
最新の情報は、当館HPでお知らせします。

入場料

一般	500円	(350円)
高大生	200円	(140円)
小中生	100円	(80円)

* ()内は20名以上の団体料金 *65歳以上の方は、特別料金350円 *次の方は無料: 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方及びその介護者、教職員が引率する小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の児童・生徒及びその引率者、土曜日来館の高校生以下の方



【交通案内】【福岡市地下鉄空港線】「天神駅」下車 天神地下街「東1a」出口または「東1b」出口から徒歩10分 【西鉄電車天神大牟田線】「西鉄福岡(天神)駅」下車 徒歩15分 【西鉄バス】(博多駅から)「博多駅前A」301・302・333番等に乗車「天神北」下車 徒歩5分 または「博多駅シティ銀行前F」46番に乘車「市民会館南口」下車 徒歩2分 【自動車】福岡都市高道路「天神北」ランプまたは「薬港」ランプから3分(無料駐車場50台)

RICERCA di LUCE

福岡県立美術館

〒810-0001 福岡市中央区天神5丁目2-1
Tel: 092-715-3551 | Fax: 092-715-3552 | <https://fukuoka-kenbi.jp>